内海ITU事務総局長
ジュネーブ便り

（2005年10、11月）

◎内海事務総局長から

世界情報社会サミットが成功裏に終わり、万感の思いです。7年前ミネアポリスでとんでもない提案だと思ったことから始まり、今日まで、数々の難局に遭遇した思い出が、駆け巡ります。

その間、何十回もの地域会合やテーマ別会合、また、準備会合を経て、世界中の何百万人もの人たちが、サミットの過程に参加し、情報通信を議論しました。その結果が、ジュネーブとチュニスで作成された4つの基本文書、2015年までに、公平で公正な情報社会を建設することが合意されました。これだけの大事業を成し遂げられたのも、日本の皆様の御支援のおかげと感謝しております。

ITUや私の活動は、日本には余り紹介されていないようですが、サミットがいかに大事業であったかは“utsumi yoshio”でGoogle の英語サイトを検索していただければ、約10万件のWebページをヒットすることで想像がつきます。また、チュニジアサミットを終了して1か月になり、どんどん削除されていますが、同様の方法で、英語のニュースサイトを検索すると、数百のメディア関連サイトに私の発言等が引用された記事がまだ残っております。

この過程で、実に多くのことを学びましたが、何らかの形で、この経験が、日本のためにお役に立てる方法はないものかと模索しております。

◎2005年10、11月の事務総局長の主な動向

10月3～6日　ITUテレコムアメリカ2005（ブラジル）

ICTの最新技術の展示と動向を議論するフォーラムで構成するITUテレコムアメリカ2005をブラジルで開催しました。アメリカ地域で開催する5回目の地域テレコムとなりましたが、開催直前まで出展企業の呼び掛けに苦労するテレコムとなりました。フォーラムでは、各国の電気通信規制体からの参加が従来以上に多く活発なものとなりました。

10月24～28日　WSIS政府間交渉会合（ジュネーブ）

9月のWSIS第3回準備会合では、WSIS採択文書の全項目について合意することができず、インターネットガバナンスやWSIS行動計画の実施メカニズムについては継続審議となりました。そのうち、同会合ではWSIS行動計画の実施メカニズムについて集中審議を行いましたが、各国政府、各国際機関の思惑が深くて最終合意できず、チュニジアまで決定は持ち越しとなりました。

11月16～18日　世界情報社会サミット（チュニジア）

・WSIS準備会合（13～15日）

インターネットガバナンスについて、現在のシステムを変更したくない米国、公共的見解をシステムに反映させるべきとするEUと、そのほかの途上国らが三つどもえで鋭く対立し、Web上のメディアもにぎやかに報じ政治問題ともなりました。結果的には、同問題を扱うマルチステークホルダーによるフォーラムの設置を国連事務総長に要請することとなりました。また、WSIS行動計画の実施体制についても、各国及び各国際機関の複雑なパワーポリティクスのなかで議論が延々と続きましたが、最終的にはITUらが実施体制をリードしていくことで決着しました。

・WSIS開催までの準備

ITU事務総局長である私は、WSIS事務局長を兼ねており、会議設備の設営及びセキュリティ対策にも責任がありました。チュニジアは、これまで大規模な国連の会議を開催した経験がなく、必要な会議設備及びスケジュールを事前に合意していたにもかかわらず、ラマダンと重なったこともあり準備作業がかなり遅れました。細かなことまでも大臣の承諾が要るなど大臣に権限が集中しすぎていることも原因の一つで、一日に何度も大臣に直接電話をして催促する日々が直前まで続きました。また、チュニジアは、表現や集会の自由が制限されている国と西側諸国で認識されていて、一部の市民社会の活動家とジャーナリストが、過激な行動を起こすとの情報がありました。特にオープニングセレモニーでは、チュニジア大統領と人権活動に尽力したノーベル平和賞受賞者がスピーチすることとなり、セキュリティ担当者とは直前まで入念な対策を打合せしていました。

・WSIS

国連のサミットのなかで初めて政府、民間、市民社会が一緒に議論したこのサミットは、50か国からの元首級を含め2万3,000人が出席して、会議設備、セキュリティやメディアへの対応にも問題がなく大成功を収めました。ITUのステータスも格段に高まったと感じます。政治問題となったインターネットガバナンスなどの各国の駆け引きも、WSIS前夜には合意に至ることができました。各関係者が“WSISを成功させよう。公正な情報社会を創ろう。”という思いでまとまれたのだと思います。WSISでの写真をITUのWebサイトに掲載していますので、御覧ください。
http://www.itu.int/wsis/plib/index.asp

ITUは、WSISプロセスのなかで、デジタル・ディバイド解消のための“コネクト・ザ・ワールド”というプロジェクト立ち上げましたが、すぐさま多くの民間、政府が賛同してパートナーとなりました。このモメンタムを絶やすことなく、ITUは公正な情報社会の創造に向けて活動を続けてまいります。

各国首脳、アナン事務総長と私の全体写真